

# 看護 青い森

vol.  
**107**  
発行日  
2020. 10. 30

## INDEX

- Nursing Now『看護の力で健康な社会を！』キャンペーン
- 新型コロナウイルス対応に係る看護師の派遣
- 令和2年度看護大学等進路説明会開催！
- 災害医療と看護～実務編～
- 保健師職能委員会コーナー
- 助産師職能委員会コーナー
- 保健師職能委員会・看護師職能委員会Ⅰ・看護師職能委員会Ⅱ 合同企画
- 広報出版委員 取材レポート
- 感染対策セミナー
- スペシャリスト～認定看護師～
- 第一副会長として協会と現場をつなぐ
- 「令和2年7月豪雨災害」見舞金について



2020年度 会員数 8,716人 (昨年10月比 +76人) (2020.10.7現在)	保健師 255人 昨年10月比 -2人	助産師 322人 昨年10月比 +7人	看護師 7,776人 昨年10月比 +80人	准看護師 363人 昨年10月比 -9人
--	------------------------	------------------------	---------------------------	-------------------------

# Nursing Now

## 『看護の力で健康な社会を!』キャンペーン

ナイチンゲール生誕200年を機に、看護職が持つ可能性を最大限に発揮し、人々の健康向上に貢献するために行動する世界的なキャンペーンです。本会も趣旨に賛同し、『看護の力で健康な社会を!』をテーマにキャンペーンに取り組んでいます。新型コロナウイルスの影響により規模を縮小しましたが、取り組みの一部をご覧ください!!

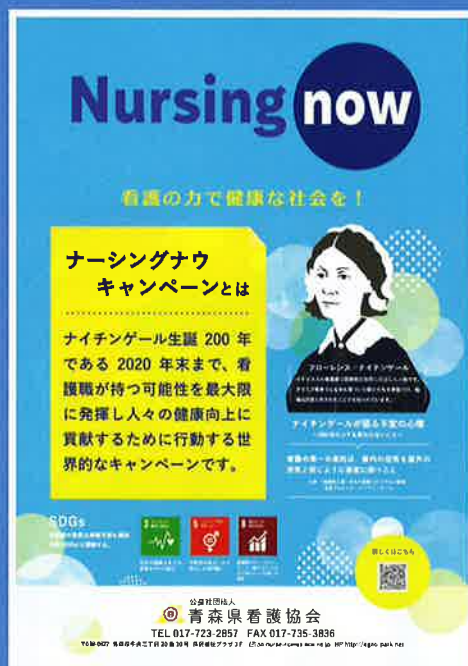
その  
**1**

青森県庁北棟に懸垂幕を掲げ、県民に広くアピール!!



その  
**2**

ポスター掲示による県民へのアピール!!  
県内の医療機関、薬局、市町村、道の駅など約2,000カ所に送付し、掲示を依頼しました。



その  
**3**

令和2年度認定看護管理者教育課程ファーストレベルは開催を1か月延期し7月10日(金)に開講しました。開講から3日目の7月16日(木)、講師の遠田先生と証谷会長を囲んで、受講者49名がコロナ禍を無事に乗り切り、9月2日の閉講式を迎えることを『Nursing now』に誓いました。



※日本看護協会は、このキャンペーンを2021年6月まで期間延長することになりました。

# 新型コロナウイルス対応に係る看護師の派遣

弘前大学医学部附属病院 今 愛子



派遣先の医療スタッフの皆様と共に(手前左が私です)

新型コロナウイルスの感染拡大で医療体制がひっ迫している沖縄県から看護師派遣要請があり、8月27日～9月10日まで沖縄県立南部医療センター・こどもセンターにおいて、主に非コロナ対応の病棟で看護業務の支援にあたりました。

私が所属している高度救命救急センターは、COVID-19陽性患者の対応施設となるため、準備段階でも大変さを感じており、実際看護にあたっている看護師の支援ができればと思い、要請を受けました。

病棟業務の他にも、県コロナ本部とのZOOMでのミーティング参加やCOVID-19対応の病棟・手術室の見学及びグリーンゾーンでの対応を経験することができました。

派遣時は、病棟・ICU・ERに患者が入院しており、看護体制はオンコール体制で対応にあたりま

た。勤務している看護師の苦悩や思いが書かれたノートを拝見し、胸が締め付けられる思いでした。今後、同じ境遇に直面した場合、今回得た知識や経験をどう活かしていくかが課題となりました。

「私が来たことでかえって負担になっているのではないか」という思いもありましたが、看護部や病棟スタッフから感謝の意が伝えられ、離任時にはたくさんの心遣いを頂き、看護師としての役割と協働が果たせたと感じる事ができました。

## 新卒看護職の離職率を下げよう!

令和2年度に就業した新卒看護職を対象に、7月21日(火)八戸市、7月28日(火)青森市、7月30日(木)弘前市で「新卒看護職カフェ」を開催しました。日常の業務を離れ、ホテルにおいてグループ形式で楽しかったこと、辛かったこと、やってみたいこと、悩んでいること等について話し合いました。ファシリテーターを看護師等学校養成所の教員にお願いし、コーヒータイムを取りながら本音で語り合えるよう進めていただきました。

新卒看護職の方からは、楽しかったこととして、「一人で注射ができるようになって嬉しかった」などの看護技術の上達や、「退院後の患者・家族に声を掛けられた時」などがあげられていました。一方、辛いことや悩んでいることとして、指導者や同僚との人間関係、自身のスキル不足などがあげられ、「前にも教えたでしょ」、「あの人はできたのに」、「なんで?」という言葉に傷ついている人が多いことが分かりました。でも、「1回では覚えられないけれども、今後の成長に期待



してほしい」という声もあり、新卒看護職みんなの思いではないかと感じました。

終了後のアンケートでは、「同じ悩みを抱えているのは自分だけじゃないとわかった」、「不安や悩みを共有できて、心が軽くなった」という感想が多く、教員からは卒業後のみんなの成長が感じられて嬉しかったという声もあり、有意義なカフェとなりました。

(青森県看護協会 事業課 福多 彩子)



# 令和2年度 看護大学等 進路説明会 開催!



今年度の看護大学等進路説明会が9月5日(土)リンクモア平安閣にて開催されました。

例年、高校生の夏休み期間に実施していますが、新型コロナウイルス感染状況に鑑み、一度中止としました。

しかし、看護への道を志す高校生たちに少しでも、現場の雰囲気を感じてもらうため、感染予防対策を講じたうえで小規模で開催することにしました。

当日は定員を100名程度(先着順)とし、入場できるのは高校生のみと制限しました。大学の先生方に直接相談できる“個別相談”も完全予約制としました。

参加した高校生たちからは、「フライトナースって知らなかった。感動しました。」「全てがとても参考になりました。」「発表者の方のお話がとても分かりやすく、興味をひかれるものだった。またやっていただきたい。」という感想が聞かれました。

高校生たちにお話をして下さった講師のみなさん、個別相談に対応して下さいました看護大学の先生方、『後輩へのメッセージ』を寄せてくれた看護学生のみなさま、開催に携わって下さった関係者のみなさまに心より感謝申し上げます。(青森県看護協会 事業課 工藤智恵子)

入り口での手指消毒、マスク着用、健康観察票の記入、会場の3密回避を徹底した中での実施となりました。



## 参加した高校生から看護職へエールをいただきました。 #NursingNow\_キャンペーン

- 辛い現状の中頑張ってくださいありがとうございます。私は救急看護師を目指しています。自分の夢を叶えるために一瞬一瞬全力でできる事をやっていきます。近い未来、現場で頑張っている方々と一緒に活動できるように!
- 人の命に関わる看護師を尊敬しています。頑張ってください。
- 自分も感染しないように気をつけます。
- 健康に暮らせるのは医師や看護師の皆さんがいるからです。いつもありがとうございます。応援しています。

- 看護師になれるように勉強をすること。そして自分自身のコミュニケーション力を高め将来への投資をすること。
- このようなコロナの時期で大変だと思いますが、日本のために頑張ってくださいありがとうございます。私も勉強を頑張り、日本の医療を救う活動に加われるよう、努力したいと思います。
- コロナで大変でしょうが応援しています。私も将来たくさんの人の人生に関わり助けたいです。
- 優秀な看護師になるためにとにかく

### 日本の医療を救え

#NursingNow\_いま私にできること  
看護職へエールを!



く一生懸命学ぶ。

- 治療だけでなくメンタルケアなど細かいところまで気にかけてくれるおかげで、患者様やそのご家族は病気と立ち向かうことができていると思います。体力、精神力、共に消費される職業ですが、頑張ってください。応援しています。

この他にもたくさんのメッセージをいただきました。ありがとうございました。

## プログラム

### ◆ステージ: 13:00 ~

- 13:00 開会  
13:05 「新人看護師に密着」DVD上映  
13:10 多様な分野で働く看護職の紹介  
1. 「救命の最前線」フライトナース  
青森県立中央病院 中井由美子 氏  
2. 「在宅の看護を担う」訪問看護師  
あんさん訪問看護ステーション 沼倉 昌洋 氏

### 3. 「看護のスペシャリスト」

乳がん看護認定看護師  
青森県立中央病院 飯村富美子

13:40 「#NursingNow\_いま私にできること」キャンペーン紹介

13:45 質疑応答

13:50 閉会  
(自由参加)DVD上映

### ◆相談ブース: 14:00 ~ 15:00

- 【参加大学】
- 青森県立保健大学
  - 青森中央学院大学
  - 八戸学院大学
  - 弘前大学
  - 弘前学院大学
  - 弘前医療福祉大学

## 災害医療と看護 ～実務編～

令和2年9月3日(木)県民福祉プラザにて災害医療と看護(実務編)を開催しました。

この研修は『災害医療と看護(基礎編)』または『災害支援ナースへの第1歩～災害看護の基本的知識』研修を修了していることが受講要件となります。

今年度は、19名が受講され災害支援ナースの活動の実際、派遣の手順、避難所体験、支援者のストレスについて等の内容で行われました。

災害支援ナースへの登録を心よりお待ちしております。  
(青森県看護協会 事業課 工藤智恵子)



避難所設営について演習中

### ●日看協合同訓練被災県のお知らせ **今年度は青森県が被災想定県です**

日本看護協会および都道府県看護協会は、災害支援ナース派遣調整訓練を合同で行っており、今年度は令和2年12月8日～10日にかけて実施されます。

今回は当協会が手上げをし、青森県を被災想定県としての訓練となります。訓練では災害支援ナースおよび関係施設の皆様にご協力いただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## 医療的ケア技術研修会(看護職編)開催 [受託事業]

7月号にて、第1弾を掲載しました医療的ケア技術研修ですが、第2弾の今回は保育所等に勤務する看護職者を対象に行いました。

参加者15名は、積極的に講師へ質問するなどとても熱心に受講されていました。

参加者からは、「それぞれの手技について子ども特有のポイントがわかった。」「ケアは自分一人ではできない。皆でやらなければいけない。」「医療行為の経験が少ないので、とても勉強になった。」という感想が聞かれました。

今後、医療的ケアが必要な子どもたちを新たに受け入れてくれる保育所が増えることを期待しています。

(青森県看護協会 事業課 工藤智恵子)



◆青森県看護職資質向上研修

9月15日(火)



三村知事

青森県知事三村申吾氏から、県民の命を守る熱い想いを語っていただきました。百石町長時代、政治家として「誰も死なせないこと」を使命として地域包括ケアシステムを推進し始めた氏は、現在は従来のシステムに「住まい」「生活支援」「交通」「情報通信」「セキュリティ」の概念も加えた「青森県型地域共生社会」の構築を重要課題としているとのことでした。

「看護職の仕事は、命を真正面にとらえ、守ること。知事の立場からは『経済』の視点も平行して県民の命を守ることになるが、看護職ともチームを組み、一緒に頑張ろう!」と、看護職への激励もいただきました。

講演後、八戸平和病院看護部長佐藤美由樹氏と、十和田市健康増進課健康づくり推進係長櫻田由紀子氏から、話題提供をいただきました。

佐藤氏は、八戸市内4病院間の人事交流について発表。人事交流後は、「施設間連携の課題」に挙げた「情報と情報提供の不十分さ」に対し、よりよいサマリーに向けた工夫を施すことができたとのことでした。

櫻田氏は、十和田市における「健康な地域づくりを目指した保健活動」について発表。地域診断により、働き盛りの男性の死亡を減らすため、簡易血糖測定をイベントで実施したり、保健協力員や食生活改善推進員との協同活動が紹介されました。

また今話題の「ナッジ理論」を取り入れた活動や、全庁あげて安心・安全なまちづくりを目指した地域包括ケアシステムネットワークの展開が紹介されました。

最後に、同じ席に着いている保健師と看護師又は異施設の看護師間の情報交換を行い、有意義な研修になりました。  
記・保健師職能委員 種市 雅



佐藤美由樹氏



櫻田由紀子氏

助産師職能委員会コーナー

◆周産期メンタルヘルスケア研修 (CLOCMIPレベルⅢ更新対象研修)

9月18日(金)



鈴木廣子先生

講演はすずきひろこ心理療法研究室 院長の鈴木廣子先生、情報提供は県立中央病院 母性看護専門看護師の八嶋三由紀氏、あおもり親子はぐくみプラザ 母子保健チームの川村智子氏、医療法人芙蓉会メンタルクリニック ラ・ポム 院長の鈴木克治氏から頂戴いたしました。どのお話も具体的な事例紹介があり、とても参考になりました。

妊娠初期からのすべての妊婦のスクリーニングの必要性や共通危険因子(ソーシャルサポート不足・家庭内暴力・望まない妊娠)に気づき、

多職種と連携して継続的・包括的に傾聴・共感の情緒的サポート支援が大事であると改めて感じました。「愛着＝アタッチメント」の質の回復のための支援はスキンシップを促す支援が基本です。

鈴木廣子先生が講演の最後におっしゃった「私たちが出会い母子とその家族が安全にそして安心できる育児を支援することは、未来の日本社会への私たちの最高の贈り物になります」というお言葉にとっても感動しました。

記・助産師職能委員 渡邊有香子

！助産師の皆さんへ

新型コロナウイルス感染拡大防止が必要とされる中、周産期では母親学級、夫立会い分娩の中止、家族の面会制限など不安な気持ちで妊娠生活を送る方も多いと思われます。また、産婦の不安を感じながらも通常どおりの支援ができず、感染予防のための新たな業務負担などの大変なストレスを抱えながら、日頃の業務に日夜奮闘なされていることに敬意を表します。



## 病院・施設看護職 と 行政・産業保健師 の交流会

8月22日(土)にリンクステーションホール青森にて「病院・施設看護管理者と行政・産業保健師の交流会」を開催し、当日は46名の参加者がありました。

地域包括ケアシステム推進のためには、保健師や看護師等看護職の連携が重要であることから、地域における看護職(病院看護師・施設看護師・行政保健師・産業保健師)同士がお互いの役割を理解し、より効果的な連携が推進できるよう交流会を開催しました。交流会では、病院看護師・施設看護師・行政保健師・産業保健師がそれぞれの立場から話題提供し、その後、参加者全体で意見交換を行いました。

### 話題提供

#### ① 病院看護師の立場

医療法人弘仁会於本病院 看護部長米内氏から、「看護職だからできる連携」をテーマに、於本病院での地域連携の立ち上げから現在の取組みの紹介がありました。日頃から顔が見えるを意識して活動しているため、スムーズに連携がとれた事例をとおして連携の大切さを改めて感じました。

#### ② 施設看護師の立場

健生訪問看護ステーションたまち 看護長布施氏から、「訪問看護師の連携」をテーマに、看護小規模多機能居宅介護での看取りが紹介されました。病院看護師、ケアマネジャー、訪問看護師がタイムリーに連携し、心穏やかに最期を迎えることができた心あたたまる事例で、連携の際の、お互い歩み寄る姿勢や関係機関が目標を統一することの大切さを学びました。

#### ③ 行政保健師の立場

むつ市子どもみらい部子育て支援課 保健主任木村氏から、「周産期カンファレンス～『これまで』と『これから』～」をテーマに、カンファレンスを通じた看護職間の連携の効果と課題が紹介されました。産婦人科医師とのタイムリーな連携と情報交換、下北郡の町村間やむつ総合病院メンタルヘルス科との連携が取りやすくなったなどの効果が話され、今後の取組みの参考になりました。

#### ④ 産業保健師の立場

産業保健相談員 産業保健看護上級専門家(青森県立保健大学健康科学部看護学科准教授)千葉氏から、産業看護職の役割や活動状況などについて紹介がありました。同じ看護職でも日頃ほとんど接点がありませんでしたが、がん治療との両立支援や健診の事後指導についてなど、今後医療機関や行政と共催できる可能性を感じました。

今回の交流会はコロナ禍での開催でしたので、当初計画した地区毎の交流ができず少し残念でしたが、アンケート結果から「様々な分野の活動、連携の状況について知ることができてよかった。」「産業保健師については初めて聞く内容で大変参考になった。」との意見もあり、お互いの役割を理解するという目的を達成することができました。今回の交流会で得たものを今後のさらなる連携推進につなげていきたいと思えます。



情報提供の様子



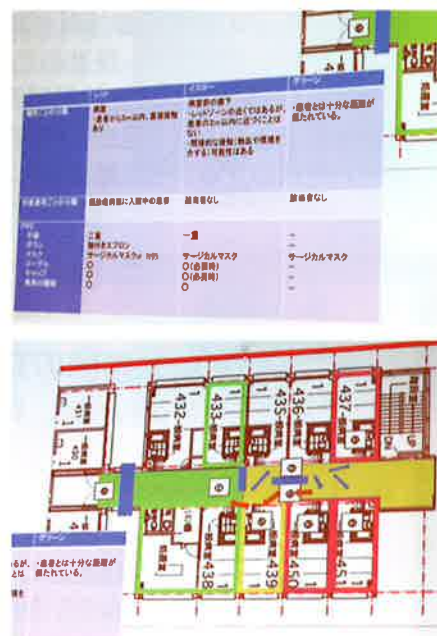
意見交換の様子

## 一般研修 「一人ひとりが取り組む感染防止対策 ～患者さんとあなた自身を守るために～」

**日時** 令和2年9月15日 **場所** 県民福祉プラザ  
**目的** 感染防止対策について現行の確認・見直し  
**参加** 95名



体温測定など様々な感染対策のうえ開催されました。



### 講師

弘前市立病院  
 感染管理認定看護師  
 伝法谷一代 氏

- 最新の動向  
新型コロナウイルス  
について
- ウイルス性感染症対策  
ノロウイルス



青森市民病院  
 感染管理認定看護師  
 川口 理恵 氏

- VREについて
- インフルエンザ



青森県立中央病院  
 日本エイズ学会認定  
 HIV感染症看護師  
 船橋 亜矢 氏

- HIV感染症の  
基礎知識



はじめに最新の動向からということで新型コロナウイルス感染症に関して講義がありました。感染対策で重要なことは標準予防策を徹底すること。そして、PPEを備蓄しておくこと。PPEの流通が一時的に停滞したことで備蓄の大切さを実感したと述べていました。会場からは、施設で新型コロナウイルス感染症が出た場合どのような対応をすればいいのか、どうしても感染流行地域に行かなければならないときの職員の対応などの質問がありました。

次いでVREについて、健常者にとって病原性は低い感染防御機能が低下した患者には様々な感染症を引き起こし致死率も高い。知らず知らずに広まっていることが問題となる。標準予防策が基本となり、その中でも手指衛生が大事になる。適切な手技・タイミングで実施することが感染拡大防止につながる。手袋をつけているから安心ではなく、外す時に汚染したり、穴が開いていたりすることがあるため手袋を外したら必ず手指消毒することが大事であるということでした。

インフルエンザ感染対策で重要なことは地域の流行を把握し持ち込み防止策に努め、発症者を早期発見・対応すること。今年は新型コロナウイルス感染症とあわせて対応が必要となるということでした。

また、日常的に流行するウイルスに加え、HIV感染症について、正しい知識を得ることが長年にわたる感染者への支援の必要性を理解し、職業感染防止につながることを学びました。

研修を終えて、全ての感染症対策で重要なことは、日常的な標準予防策の実施とそれを全職員が確実に実施できることが感染予防につながり、それが、患者を守ることになり自分自身も守ることにつながっていくのだということを知ることができました。



世界的な新型コロナウイルス感染症は、青森県においても発生し、更に施設での集団感染も認められました。今後の第二波・第三波に備えるため、クリニック・介護施設・訪問看護ステーションの看護職(会員・非会員問わず)を対象に、3市でセミナーを実施しました。

内容は、医師からコロナウイルスについて、感染管理認定看護師からは、クリニック・介護施設・訪問看護ステーションでの対応についての説明がありました。最後に、防護具の着脱について、演習を行いました。

参加者からは、施設の感染対策の確認や見直しができる内容だった、防護具の着脱演習がとても参考になった

という声が聞かれました。

今回のセミナーは、看護協会の研修・事業が延期している中でスタートしたものであり、会員・非会員問わず周知したところ、多くの方が参加してくれました。今後の感染拡大に備え、自施設の感染対策を見直すことにつながったこと、また非会員の方に看護協会の活動を伝えることができる場にもなりました。今後も現状の問題や課題に対し、マッチした事業等を企画していきたいと思えます。

(青森県看護協会 常務理事 前田 隆子)



八戸会場

令和2年6月27日(土)  
参加者99名



弘前会場

令和2年8月7日(金)  
参加者90名

青森会場

令和2年7月31日(金)  
参加者71名



## 三戸中央病院におけるボランティアスタッフの活用

三戸中央病院 総看護師長 中村恵美子

当院では、平成10年からボランティアの受け入れを行っております。主な活動内容は書類等の準備、総合案内での受付補助です。ボランティア開始当初は、リネン交換や薬局受付機の説明なども担当していただいたこともあります。

現在はコロナ感染拡大防止のため休止中ですが、3名の方が登録しています。3名とも以前は当院の看護師長として大活躍された経歴をお持ちです。

ボランティアスタッフの方から、「少しでもお役に立てれば良いと思います」「ここに来ることが楽しみです」と笑顔と一緒にいただいた言葉は病院の宝物です。

全員が町内の方で、地元に対する深い愛情を感じます。現在は引退されましたが、活動歴最長は19年！少数ですが、大学生や看護学生の参加もありました。看護学生はボランティア活動時に「地域へ貢献したい」と熱い胸の内を語り、看護師養成所を卒業後に当院へ就職しました。

これまでボランティア活動に参加してくださいました皆さまに、心から敬意と感謝の意を表します。



## 食べることに専門の看護師

# 『食べることは、生きること』

青森慈恵会病院 看護部  
摂食・嚥下障害看護認定看護師  
丹藤 淳



摂食・嚥下障害看護認定看護師は、言わば「食べることに専門の看護師」です。本来、人は生まれてから死ぬまで食べなければなりません。しかし医療の発達と共に、中心静脈栄養や胃瘻などの人工栄養が普及して、口から食べなくてもある程度は生きられるようになりました。その結果、誤嚥性肺炎を恐れるあまり、食事を摂らせず、人工栄養で生きることが安全かのような風潮が蔓延した時期がありました。過去に私も、医師から「食べたらず肺炎になって、死にます。」と患者本人や家族が言われ、泣く泣く食べることを諦めた事例を何度も見てきました。残念ながら、そのような事例は今でも生み出されています。そんな事例を見てきて、「口から食べることに」について深く学びたいと思ったのが認定看護師を目指すきっかけになりました。

『食べることは、生きること』私が仕事をやるにあたり、これを常に心がけています。「生きる」ではなく「生きる」としているのは、食べることは単に生きるための栄養摂取だけの手段ではないと思うからです。人には食べることを通して、他者と多くの喜びを共有し、そのつながりを実感することができます。食べられなくなると、そのつながりは一気に途絶えて孤独の中に陥ってしまいます。「食べるな」ということは、医療者が率先して社会的な孤立を生み出す原因を作っている可能性があるのです。

青森慈恵会病院では、「食事サポート入院(食サポ入院)」という取り組みを行っています。これは施設で暮らす方や在宅療養者などで過去に経口摂取困難とされた方に、もう一度口から食べることを目指して私たちスタッフが一緒にチャレンジするものです。これまでも1年以上胃瘻のみであった方など、様々な理由で経口摂取困難とされた方を受け入れ、食べる喜びを取り戻すことができました。たった一口のコーヒーでも、それを家族と一緒に飲むことにより、ご本人も家族も代え難い時間を過ごすことができます。そんな時に見せていただける満面の笑みは私にとっても代え難い喜びであり、やりがいへとつながっています。

短命県青森ではありますが、「人生最期まで口から食べることができる県」となるべく、これからもスタッフと一緒に頑張りたいと思います。そして興味のある方は是非、摂食・嚥下障害看護認定看護師にチャレンジして欲しいと思います。どこで暮らしていても「人生最期まで食べることを諦めない青森県」を目指す仲間を、心からお待ちしております。



# 第一副会長として協会と現場をつなぐ ～自治体病院看護部次長の立場から～



青森県看護協会 第一副会長(青森県立中央病院 看護部次長) 山内留美子

青森県看護協会の一会員となって38年目となりました。青森県立中央病院に入職した時から現在に至るまで、協会の様々な研修に参加できたことは自身のキャリア形成において大きな支援となり、改めて会員であり続けてよかったと思います。

当院の看護部次長となってからは協会に深く携わる機会をいただき、現在は第一副会長を拝して2年目を迎えました。一役員として協会運営に微力ながら携わるようになってからは、改めて協会が看護職を応援し支える存在であることを実感しています。

私が勤務する青森県立中央病院は県から委託された協会事業に関わる機会があり、看護部次長として看護部長を補佐して事業への協力を努めています。また理事会に出席できる立場から、理事会の報告内容を看護部長へ伝達し現場の声を協会へ伝えることで協会と現場をつないでいます。

今、私たち看護職は様々な課題を抱えています。課題解



藤井看護部長(左)へ報告中

決に向けて取組むためには看護協会と医療現場がつながり、双方向で情報を共有し連携を強化することが何より必要とされていると感じています。

## 特定行為研修開校!!

## 県内初の研修スタート!!

皆さま待望の特定行為研修の研修機関が県内2カ所に開設され、このほど開講式が行われました。

特定行為が可能な看護師になることは、看護の質向上と役割拡大につながります。特定行為を必要とする人々へ必要な時にタイムリーに安全で質の高い看護を提供することができ、症状や苦痛の緩和を図り、生活の質の向上にも貢献できます。

研修機関名	特定行為区分	開講式	募集人員
青森中央学院大学	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	10月1日	5名
八戸市立市民病院	領域別パッケージ研修「救急領域」	10月6日	5名*



青森中央学院大学



八戸市立市民病院

◆ 受講期間は2校とも、令和2年10月1日～令和3年9月30日です。

※八戸市立市民病院は、今年度の受講生を同院の看護職としています。来年度以降は広く公募する予定です。



## 「令和2年7月豪雨災害」見舞金について

会員の皆様から寄せられた「令和2年7月豪雨」の災害見舞金について、令和2年9月11日に熊本県看護協会および大分県看護協会にお送りしました。

それぞれの県協会から、お礼のお電話やお礼状をいただきましたこと併せてご報告いたします。募金に応募下さった皆様、ご協力ありがとうございました。

見舞金総額：718,656円

## 四師会で更なる連携の強化を!

令和2年9月17日(木)、県民福祉プラザにて令和2年度青森県四師会協議会が開催されました。青森県医師会、青森県歯科医師会、青森県薬剤師会および青森県看護協会から各会の役員が出席し、地域包括ケアにおけるそれぞれの役割について意見交換しました。

また、各団体から情報提供を行っていただき、各団体との一層の連携を図ることができました。

(青森県看護協会 総務課 山口 大介)



## 心も身体も健康に!

青森県看護協会では、職場におけるメンタルヘルス対策の一環として「心の健康づくり計画」を作成し、職員の心身の健康づくりに取り組んでいます。

令和2年9月2日(水)に、当協会運営本部役員および職員を対象とし「セルフケア研修会」を開催しました。

「“今から始めよう”心のメンテナンス!～心の健康づくり～」をテーマにし、当協会の第二副会長でもある産業保健相談員 長瀬比佐子氏に講師をお願いしました。研修は終始和やかな雰囲気が進み、研修が終わるころには「仕事の質向上には心の健康が第一だね」と皆が感じたのではないのでしょうか。

青森県看護協会の  
ヘルシーワークプレイスの  
取り組み!!



講師の長瀬比佐子氏による呼吸法実践

患者様宅

テレビ電話だけではない  
ニプロハートライン

病院

かかりつけ  
薬局

Heart Line

ニプロハートラインを用いた  
オンライン診療 オンライン服薬指導  
の色提案

ニプロハートライン3つの特長

- 特長1 バイタル測定結果の自動取り込み・記録保存
- 特長2 緊急時自動アラート機能
- 特長3 処方箋情報取り込み

**ニプロ株式会社**

〒531-8510 大阪市北区本庄西3丁目9番3号

**☎ 06-6373-3168**

9:00~17:30(土・日・祝祭日を除く)

※電話番号をよくお確かめのうえ、おかけ頂きますようお願い致します。  
2020年6月作成

## 編集後記

朝晩めっきり涼しくなって参りました。コロナ禍ではありますが、研修も対策を取り再開しております。皆様は秋を堪能されておられますでしょうか? 広報出版委員会一同、その季節を感じられるようなタイムリーな記事をお送りできるように頑張りますので今後ともよろしくお祈りします。

(青森県看護協会 広報出版委員一同)